

暮らしているところが ふるさとになる

学生と地域で考えるまちづくり会代表 ひらの 平野 あゆみ

出会いが何かを変える

幌北地区で「学生と地域で考えるまちづくり会」が発足して今年で3年目を迎えます。二人目の代表として幌北のさまざまなまちづくり活動に参加しています。ふるさと和歌山から、学生時代を過ごす幌北へとやって来ました。

幌北で暮らすようになってから、さまざまな人たちと出会い、その想いや考えに触れてきました。今では顔見知りが増えて、学生だけではなく、小学生や父母と同世代の人、そして祖父母と変わらない方々ともあいさつが交わせるようになりました。生まれ育ったふるさとでは当たり前すぎて関わりの少なかった「自分の暮らすまち」という存在がすごく大切なものなのだという認識が生まれました。

幌北という地域の特徴もあって、留学生だけでなく外国の方たちとも交流する機会が増えました。

ちょっぴりですが、自分の意識も変わってきました。「地域のために自分にももっとできることがあるかもしれない!」そんなふうに思えるようになったのです。

幌北の1年とわたし

4月 留学生との折り紙交流会とテレビ取材がありました。留学生の方と一緒に楽しくおしゃべりをしながら折り紙を折りました。皆さん興味津々に、上手に折ろうと頑張っていました。

た。テレビ取材は「愛・らぶ・サッポロ」という札幌市の広報番組でした。カメラを向けられた際は緊張しましたが、きっと幌北の魅力が伝えられたことと思います。



折り紙交流会

6月 ジンギスカンパーティー交流会で、幌北の方たちと学生の交流を行いました。

北海道大学ではこの時期、理学部ローンでさまざまなサークルやグループがジンギスカンパーティーを行っています。この時期に幌北の方たちと楽しく交流できる機会をつくろうと学生たちで企画して実現しました。通りかかった赤ちゃん連れのお母さんたちや外国の方も気さくに参加してくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また6月は、私たちの活動が、NPO法人日本都市計画家協会北海道支部長賞として表彰されました。これまで意欲的に取り組んできたことが認めてもらえたということが、とてもうれしかったです。

8月 幌北ふるさと夏祭りは、今年は天候にも恵まれ、2日間にわたって開催されました。昨



ジンギスカンパーティー交流会

年同様、地域の子どもたちとも楽しく遊びました。今回は留学生ブースを設け、イラン出身のソマイエさんのご協力で、家庭でおなじみのおやつを会場で実際に調理し、来場してくれた皆さんに食べて頂きました。それはとても素朴で新鮮な味でした。手作りって、こんなに温かいんだと感じました。



ふるさと夏まつり イラン文化の特設催事

昨年度私たちが作った「ほらほら幌北 Vol.1」(教本)も有償で販売させて頂き、次の「ほらほら幌北 Vol.2」の作成費用を支援してもらいました。

もちろんお祭りですから、私たちもカラオケやYOSAKOIに参加して、楽しい時間を過ごしました。

9月 バングラデシュの方たちを中心とした交流会を開催しました。サイダさんというお母さんが、バングラデシュのカレーを教えてください、当日交流会に来てくださった方たちに振る舞いました。食を通じての交流が互いを

こんなにも結びつけてくれるものかと思いました。またこのときはバングラデシュのファッションショーも行い、私は花嫁衣装を着させてもらうというとても貴重な経験をしました。会の準備から閉会式を迎えるまで、バングラデシュの魅力を余すところなく最大限に伝えてくれました。幌北会館の集会室は150人もの人々でひしめき、演奏や歌もあって、にぎやかでとても楽しい時間を共有しました。



バングラデシュの花嫁衣装を着て

10月 NPO法人日本都市計画家協会の全国まちづくり会議の「地域と大学の連携交流会」に幌北での取り組みを出展、参加しました。他地域の大学生との交流はもとより、他のテーマ交流会の方たちとの出会いはとても楽しいものでした。

11月 中国の方との交流会を開催しました。中国の方で日本の男性と結婚された大谷さんをお招きし、中国と日本の暮らしの違い、儒教を重んじた家族関係、子育てなどの苦労話を聞きました。中国は近い国でありながらほとんど知識がありませんでしたから、彼女の話すこと全てが新鮮で驚きの連続でした。70人位の参加で、お茶とお菓子で和やかな時間を過ごしました。

12月 いよいよ「ほらほら幌北 Vol.2」をまとめあげる時期になり、これまで仲間と一緒に取材したり、地域の方にサポートして頂きながら集めた原稿を編集したりと印刷製本へ向けて

まっしぐらです。

また、もう一つの大きな取り組み、ホームページの更新も佳境です。昨年度作り上げた『net ほろきた』のホームページは今年度、少しずつではありますが、外国の方にも楽しんでいただけるものにしていきます。食の特集記事も学生街幌北で、次々にお店がオープンしているスープカレーの特集など、どんな年代の方もアクセスしたくなる楽しいものにしていきたいと思っています。

16日は幌北小学校の4年生の皆さんと交流会を行いました。1月31日～2月2日に開催されたミニミニ雪まつりを飾るキャンドルを一緒につくりました。ペットボトルを再利用して環境問題を考え、これをミニミニ雪まつりで飾ることでまちの景観を彩り、見に来てくださる方々が増えることでまちに活気生まれる。そんなことを想いながら小学生と一緒ににぎやかに制作しました。

1月 幌北連合町内会新年交礼会に参加しました。「ほらほら幌北 Vol.2 “地域の活動”」が完成し、いよいよお披露目です。「ほらほら幌北 Vol.1」は幌北の歴史をここに暮らす方たちから伺い、地域を知ることの大切さを実感しました。2冊目の今回は歴史から現在へと視点を変えて、地域を支える人々やそのつながりからまちづくりの大切さを再確認しました。内容が少々大人向けになってしまったところが反省点ですが、幌北小学校の皆さんにも読んでもらい、何かを感じてもらえたらと思います。

2月 ミニミニ雪まつりはそり滑りやミニ雪だるまづくりを行いました。会の合間には女性部の方々が心をこめて作ってくださったコーンスープやおしるこなどを食べ、冷えた体を温めました。そして、いよいよ小学生たちが、自分たちの作ったペットボトルキャンドルをまちづくりセンター前に飾っていきます。夕

暮れ時、灯のともされたキャンドルは、大学生が前日から制作した大雪だるまのイルミネーションと並んで、幌北の街の一角にとっても幻想的な景色を作り出していました。



ミニミニ雪まつり

3月は新年度に向けていよいよ動き始めます。4月には新入生も加入予定です。新メンバーを加えてもまちづくり会は今までと変わらず学生らしさを全面に出して元気よく活動していきます。

暮らしているところがふるさとに！

楽しい1年間も学業とともにあっという間に過ぎていきました。学生は経験豊富な大人の人たちとうがった見方をされてしまいますが、この活動を通じて感じることは「いろいろな人との出会いはすばらしく、顔見知りになりあいさつが交わるだけでもとても心地良い」ということです。

この活動の魅力は、自分たちが何か行動を起こそうとした時、学生の力だけではどうにもならないところを、地域の方々が温かくフォローしてくださることです。

自分のふるさとを離れて一人暮らしを始めて3年。“まちづくり”について、仲間と一緒に考え、体感し、共感できるものを見つけられたことをとても誇らしく思っています。「暮らしているところがふるさとになる！」幌北が、そこに住む人全員にとってかけがえのないまちとなるように、このような活動を持続できるようにしていきたいと思っています。